

## 第1回 定例会

# 予算審査特別委員会

3月6日、9日、10日の3日間で予算審査特別委員会が開催されました。委員は永井孝佳委員長、平山清海副委員長、松木源太郎委員、木内欽市委員、片桐文夫委員、崎山華英委員、伊場哲也委員、常世田正樹委員、戸村ひとみ委員の9名で、令和8年度予算について審査を行いました。



## 令和8年度一般会計予算 328億2000万円

### 予算編成方針

令和8年度の予算編成にあたっては、社会情勢や国の動向、市民ニーズを的確に捉えながら、必要な事業を見極め、最も効果的・効率的な手法を選択し、事業の総量の最適化を進め、「チーム旭でまちづくり」の理念のもと、市民一人ひとりが健やかで幸せに、満足した暮らしを送ることができ、「ずっと住み続けたい」と思ってもらえるまちづくりを持続的に行い、将来世代に責任をもって引き継いでいくための予算編成方針とした。

新年度予算の中から、予算審査特別委員会で質疑のあった事業を紹介します。

PickUp  
2



### 部活動地域クラブ運営

2598万5000円

中学校の休日部活動を地域展開するために、コーディネーターを雇用し、移行に向けた体制を整備する。また、移行後のクラブ運営は業務委託により行う。

PickUp  
1



### 子育て世代包括支援

1586万7000円

こども家庭センターにおける母子保健機能として、妊娠・出産・子育てに関する各種の相談に応じ、妊産婦及び乳幼児の健康の保持及び増進に関する包括的な支援を行う。

# 予算審査Q&A

PickUp  
4

## 防災体制強化

A

このシステムは災害が発生した場合に建物の被害認定調査を行い、罹災証明書の発行、被災者台帳の管理をするものである。作業の迅速化や正確性が向上し、職員の負担軽減にも繋がる。また、全国で導入が増えており、応援や受援の際にもメリットがある。

Q

被災者支援システム運用事業負担金について、システム導入により業務の効率化や支援の迅速化など、具体的にどうなるのか。

PickUp  
3

## シティプロモーション推進

A

費用対効果としては、本市がテレビや映画などで取り上げられることで、市の知名度やイメージが向上している。多くの人が旭を訪れたことで経済効果もあったと考えている。

Q

結構な予算をかけているが、ロケツーリズム推進業務委託料の費用対効果の評価について、どのように行っているのか。

PickUp  
2

## 部活動地域クラブ運営

A

委託料の約3割が指導者への報酬で、約7割がアプリを利用した生徒管理、残りが人件費。9月に地域移行できるよう、生徒や保護者、教員への説明会を行っている。約20クラブの移行を予定しており、指導員を60名程度募集する。

Q

運営業務委託料2127万円について、積算根拠と現在の進捗状況、今後の見通しは。

PickUp  
1

## 子育て世代包括支援

A

8月から事業を開始し、12月末時点で、421名の登録があった。利用の実績は、24時間対応の相談が244件、平日の夜間相談が19件、助産師による日中相談が7件。また、過去の相談内容を検索できる相談検索は299件の利用があった。

Q

オンライン医療相談委託料について、令和7年度から始まったと思うが、どれぐらいの登録や利用があったのか実績を伺う。

# 令和8年度予算 注目事業をPick Up

PickUp  
4



## 防災体制強化

1589万7000円

災害対応業務のDX化を図るため、被災者生活再建システムを導入し、被災者情報を一元管理することで、事務の効率化と早期・的確な支援を実施する。

PickUp  
3



## シティプロモーション推進

1631万1000円

ロケ誘致・支援を行うことによる作品を通じた情報発信、映画やドラマ等の作品の舞台を訪れてもらうロケツーリズムを推進することで旭市の認知度向上を図る。